



2022年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年8月12日

上場会社名 太洋物産株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9941 URL http://www.taiyo-bussan.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松島 伸介
 問合せ先責任者 (役職名) 総務部 (氏名) 井坂 勇登 TEL 03-5946-8000
 ジェネラルマネージャー
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期第3四半期の業績 (2021年10月1日～2022年6月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第3四半期	15,306	25.0	291	169.3	295	283.8	241	230.7
2021年9月期第3四半期	12,242	6.3	108	—	77	—	72	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第3四半期	150.84	—
2021年9月期第3四半期	54.96	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年9月期第3四半期	8,000	368	4.6	230.14
2021年9月期	7,587	103	1.3	64.95

(参考) 自己資本 2022年9月期第3四半期 368百万円 2021年9月期 103百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年9月期	—	0.00	—	—	—
2022年9月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年9月期の業績予想 (2021年10月1日～2022年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,409	12.0	121	△45.9	64	△62.5	44	△61.0	28.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有
 ② ①以外の会計方針の変更： 無
 ③ 会計上の見積りの変更： 無
 ④ 修正再表示： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年9月期3Q	1,600,419株	2021年9月期	1,600,419株
② 期末自己株式数	2022年9月期3Q	753株	2021年9月期	753株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年9月期3Q	1,599,666株	2021年9月期3Q	1,327,466株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	4
第3四半期累計期間	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	5
(継続企業の前提に関する注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	5
(セグメント情報等)	5
(重要な後発事象)	5

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における世界経済は、景気に持ち直しの動きが見られるものの、新型コロナウイルス感染症の影響は続いており、依然として厳しい状況にありました。わが国においては、人の流れが戻り感染者が再び急激な増加傾向となり、新たな変異株の動向に懸念材料は残るものの、緩やかに景気が上向いていくものと思われる状況で、当第3四半期末を迎えました。

このような環境の中、当社の主要商品である食肉関連では、牛肉は、海外の産地価格の高騰や、コロナ禍での外食産業の影響も受け、厳しい環境下でありましたが、取扱数量・売上高とも増加させることができました。タイ産加工食品におきましても、居酒屋向けメニューの需要は減少したものの、取扱数量・売上高とも増加することができました。

鶏肉は、牛肉・豚肉の価格高騰の影響を受け、比較的安価な輸入鶏肉の需要が強まり、取扱数量・売上高ともに増加することができました。農産品は、産地価格の高騰や、現地からの船積み遅れ等が続いているものの、取扱数量・売上高ともに増加させることができました。

また、2020年9月期より取引を開始した中国のネット事業者向け商材の販売が順調に推移し、売上高を伸ばすことができました。輸入豚肉も、欧州産豚肉及び豚肉加工品の販売を強化したことにより、順調に推移しております。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は 153億6百万円(前年同四半期累計期間比 25.0%増)、営業利益 2億91百万円(前年同四半期累計期間は 営業利益 1億8百万円)、経常利益 2億95百万円(前年同四半期累計期間は 経常利益77百万円)、四半期純利益 2億41百万円(前年同四半期累計期間は 四半期純利益72百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(食料部)

牛肉は、産地価格の高騰や、営業時間短縮等の影響を受けた外食産業の環境は需要は多少増加したものの、厳しい状況が続き取扱数量・売上高とも前年同期比では減少となりました。タイ産加工食品におきましても、現地工場の稼働が低い状況が続きましたが、焼き鳥類の価格に多少転嫁でき、利益は改善しましたが外食チェーン店向けの販売を伸ばすことができず、取扱数量・売上高とも前年同期比では減少しました。鶏肉は、国内需要の増加・販売単価の高い状況が続き、比較的安価な輸入鶏肉の需要が強まったこともあり、取扱数量、売上高とも前年同期比では増加することができました。

この結果、当第3四半期累計期間での売上高は、73億16百万円(前年同四半期累計期間比1.9%減)となりました。

(営業開拓部)

農産品は、前半は産地価格の高騰や、現地からの船積み遅れ等が生じたものの、利益率の高い商品の取引を伸ばすことができ、売上高を増加させることができました。化学品につきましても利益率の高い商品の取引を伸ばすことができました。また、中国のネット事業者向け商材の販売が順調に推移し、売上高を前年同期比で増加することができました。

この結果、当第3四半期累計期間での売上高は、64億13百万円(前年同四半期累計期間比50.7%増)となりました。

(生活産業部)

輸入豚肉は、船積み遅れの影響もありましたが、欧州産豚肉取引の販売を強化したため、取扱数量・売上高ともに前年同期比では増加いたしました。

この結果、当第3四半期累計期間での売上高は、15億76百万円(前年同四半期累計期間は 5億23百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期累計期間の資産につきましては、主に売掛債権及び商品等の増加により前事業年度末に比べ4億12百万円増加し、80億円となりました。

負債につきましては、借入金の返済があったものの仕入債務の増加により前事業年度末に比べ1億48百万円増加し、76億32百万円となりました。

純資産につきましては、四半期純利益の計上等により前事業年度末に比べ2億64百万円増加し、3億68百万円となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年9月期の通期業績予想については、第3四半期会計期間においては、業績が増収増益となっております。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の急激な流行拡大に伴う業績への影響が不透明であること、原材料の高騰等により利益を押し下げる可能性もあることから、現段階では2022年2月10日発表の予想数値を据え置いております。今後状況の進展及び事業の進捗を踏まえ、適正かつ合理的な算定が可能となった段階で、修正の必要が生じた場合には速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,881,724	411,272
受取手形及び売掛金	3,117,143	4,186,639
商品	1,788,663	2,641,747
その他	255,101	276,990
流動資産合計	7,042,633	7,516,649
固定資産		
有形固定資産	263,966	234,418
無形固定資産	2,859	2,859
投資その他の資産	278,386	246,728
固定資産合計	545,212	484,005
資産合計	7,587,845	8,000,655
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	693,479	1,180,689
短期借入金	6,135,887	5,898,948
未払費用	237,648	307,259
その他	241,528	78,729
流動負債合計	7,308,545	7,465,627
固定負債		
退職給付引当金	130,162	119,753
その他	45,231	47,121
固定負債合計	175,393	166,875
負債合計	7,483,938	7,632,502
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,414,931	100,000
資本剰余金	1,376,871	—
利益剰余金	△2,694,368	238,740
自己株式	△969	△969
株主資本合計	96,465	337,771
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	7,441	30,381
評価・換算差額等合計	7,441	30,381
純資産合計	103,906	368,153
負債純資産合計	7,587,845	8,000,655

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
売上高	12,242,041	15,306,285
売上原価	11,831,876	14,643,095
売上総利益	410,165	663,190
販売費及び一般管理費	301,866	371,539
営業利益	108,298	291,650
営業外収益		
受取賃貸料	7,676	7,300
投資有価証券売却益	1,017	—
為替差益	2,929	28,876
保険解約返戻金	—	17,363
助成金収入	6,989	2,995
その他	2,377	772
営業外収益合計	20,990	57,307
営業外費用		
支払利息	44,962	41,372
その他	7,269	11,800
営業外費用合計	52,231	53,172
経常利益	77,057	295,785
特別利益		
固定資産売却益	16,299	—
特別利益合計	16,299	—
特別損失		
減損損失	—	23,396
本社移転費用	4,868	—
特別損失合計	4,868	23,396
税引前四半期純利益	88,488	272,388
法人税、住民税及び事業税	14,716	39,317
法人税等調整額	807	△8,234
法人税等合計	15,524	31,082
四半期純利益	72,964	241,306

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	食料部	営業開拓部	生活産業部	調整額 (注) 1	四半期損益計算書 計上額 (注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	7,464,323	4,254,672	523,044	—	12,242,041
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	7,464,323	4,254,672	523,044	—	12,242,041
セグメント利益又は損失 (△)	156,956	80,264	△5,264	△123,657	108,298

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△123,657千円は、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失 (△) の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	食料部	営業開拓部	生活産業部	調整額 (注) 1	四半期損益計算書 計上額 (注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	7,316,692	6,413,539	1,576,053	—	15,306,285
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	7,316,692	6,413,539	1,576,053	—	15,306,285
セグメント利益又は損失 (△)	326,091	87,008	15,464	△136,915	291,650

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△136,915千円は、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失 (△) の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位:千円)

	食料部	営業開拓部	生活産業部	全社	合計
減損損失	—	—	—	23,396	23,396

(注) 「全社」の金額は、セグメントに帰属しない全社資産に係わる減損損失であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。